

## 美術館館長とのつれづれなる談義【2019年春】

先日、大阪府枚方市にある公益財団法人天門美術館の

2019年度春季特別展

知られざる日本絵画

～四君子・歳寒三友～ 展

(2019年4月6日から4月30日まで開催、金曜日は休館)へ行ってきました。



南画には遠景画が多いのですが、今回の展示作品は、竹や梅が描かれていました。

“四君子”の語源は、以下にあるそうです。

「文房の清供に、とくに梅竹蘭菊の四君を選んだのは、他でもない。そのかすかな芬(ふん)、逸(そ)れた風致が、ひとえによく人の穢(けが)れた腸を滌(あら)い、その神骨を澄瑩(ちようえい)することができるからである」  
(明末の書画家 陳繼儒)

今回は、たまたま来館が一緒になった曹洞宗のお坊さんを含めた3人での談義となりました。お坊さんの言葉が印象的です。

「お寺の草刈りをしていました。ちびが手伝ってくれます。

ところが、刈った草の中から時折草を取り出しては、また土に埋めていきます。

なぜ、埋めるのか聞いてみると

『きれいな花が咲いているから』

私が忘れてしまった心を持っているようです。」

山中信天翁の図録がようやく完成しました。

思文閣から出版することになったそうです。